

第125回神奈川大学日本常民文化研究所研究会



片句大師堂と渋沢敬三

—宮本常一の出雲採訪の旅からの展開—

山本 志乃氏

神奈川大学日本常民文化研究所 所員
国際日本学部 教授

日時：2021年3月17日（水）17:30～19:00

会場：Zoomミーティング 【開場：17:15】

申込方法：3月15日（月）12:00までに、ご氏名とご所属を明記し、jomin-kenkyukai@kanagawa-u.ac.jpまでメールをお送りください。追って参加ID／PWを送信いたします。

主催：神奈川大学日本常民文化研究所

片句大師堂と渋沢敬三
—宮本常一の出雲採訪の旅からの展開—

昭和14（1939）年11月、アチック・ミュージアムに入所したばかりの宮本常一は、島根半島の日本海沿岸地域に足を運んだ。片句（かたく）という漁浦の旧家でようやくよき話者と出会い、詳細な聞き書きをとった(のちにアチックから『出雲八束郡片句浦民俗聞書』として出版)。これが機縁となって、当地の大師堂改築の計画を知った渋沢敬三が寄進をし、さらには翌年、渋沢を伴って再訪を果たした。渋沢・宮本と片句の人びととの知られざる交流の軌跡を、二人が滞在した旧家で今なお大切に保管されている書簡や写真などから紹介する。